

CARITASという名の学園

カリタスとはラテン語で「愛」を意味します。

カリタス学園はカトリック学校として、キリスト教の教えを基盤に、カリタス修道女会創始者聖マルグリット・デュービルに倣い、「神を信頼し普遍的な愛をもって、人のために尽くす」人間を育てることを目的としています。

幼稚園から高等学校まで、その成長段階に応じて、総合的で体系的な学習活動と、正しい判断力、行動力を培う生活指導、一人ひとりの創造性、自主性を重んじた特別教育活動を行い、これらの活動をとおして、神と人への信頼と愛に根ざした、より美しい完全な人間性の開花を目指しています。

この学園で学ぶ子どもたちが、社会に出てからも広く世界に目を向けながら、神の御前に正しく歩み、共に生きる人々の喜びとなり、愛と信頼を「きずな」として、平和な社会の建設に貢献できるよう、すこやかに育ててほしいと願っています。

CARITAS学園

4つの理念

信

神に心を開き
信頼する人間を
育てる教育

限りない可能性とともにさまざまな限界や弱さをもつ人間。私たちはそのようなものとして“永遠なるもの”にあこがれます。カリタスの子どもたちは、落ち着いた思いやりあふれる環境の中で、この永遠なるもの「神」に気づき、神への信頼と感謝のうちに世界や人生の意味を理解していきます。

開花

一人ひとりの可能性を
十全に伸ばす教育

人間は一人ひとり神から生命・知性・自由意思を与えられ、神に愛されているかけがえのない存在です。カリタスでは、子どもたちが一人ひとりが神から与えられたそれぞれの才能を十分に伸ばし、社会に貢献できる自律した人間へと成長していきます。

交わり

普遍的愛の心を
育てる教育

『普遍的愛の母』と称えられる聖マルグリット・デュービル。カリタスの子どもたちは、「互いに愛し合いなさい」というイエスの呼びかけにこたえて、創立者の生き方に倣い、身近な人々だけでなく、民族や国籍、宗教や文化を越えてすべての人々を愛することを学んでいきます。

奉仕

福音的社会をめざして
奉仕する人間を
育てる教育

福音的社会とは「最も小さな者」が尊重される、愛と平和と正義に満ちた社会のことです。カリタスの子どもたちは、「仕えられるためではなく、仕えるためにきた」と言われたイエスの教えに従い、人のため、特に恵まれない人々のために奉仕できる人間へと育てていきます。



愛の中で自由に大きく

教育
目標



思いやりのある
やさしい心をもつ子

友達とともに感動し、
喜びを分かち合える
豊かな心をもつ子



よく見、よく考えて、
最後までやりとおす
強い心をもつ子

カリタス幼稚園、
「愛」がもたらす希望と喜び

カリタス幼稚園では、一人ひとりを「かけがえのない唯一の存在」として受け止め、大切に育てていきます。愛され大切にされた子どもが他者へもその愛情を注ぐことができる人になることを信じ、教職員全員、一人ひとりの子どもと丁寧に向き合っています。すべての子どもに与えられた「生きる力」が十分に発揮できるよう、内面からの育ちを援助するとともに、豊かな人間性を培うための様々な活動を展開してまいります。神様に見守られながら、明るく優しい子どもたちが元気いっぱい幼稚園生活を送っています。



カリタス学園理事長
齋藤 哲郎
Tetsuro Saïto



カリタス幼稚園園長
木田 まゆみ
Mayumi Kida



カリタス幼稚園の園章は、カリタス修道女会創始者聖マルグリット・デュビルの名前にちなんだマーガレットの花です。白い花びらは清いこころ、金色の中心は美しい純真な心を意味しています。

カリタス幼稚園で 育っ子どもの姿

先生や友達と関わりながら、
楽しく過ごすカリタス幼稚園での毎日。
遊びや学びの中で「自然」「人間」「動植物」に接し
「自分が大切にされている」と実感することで、
愛情豊かな子どもへと成長していきます。



1

キリスト教的愛に
根ざした指導

神さまとの 出会い

入園して初めて神様に触れ、
祈ることを知る子どもたち。
カトリック精神に基づいた教育の中で
自分が大切な存在であることを知り、
感謝する心や、いたわりの心、
思いやりの心を育てていきます。



豊かな感性の育成

魅力ある 環境づくり

人間形成の一番大切な時期に
子どもたちの知的好奇心を満足させ、
子ども本来の力を引き出します。
モンテッソーリ教育を
実践する環境の中で、音楽・制作など
バランスのよい活動を行い、
豊かな感性を育てていきます。





3

心身ともに
バランスのとれた成長

身体能力の向上

楽しく身体を動かしながら、
身体機能を発達させる体操の時間。
専門講師の指導のもとに、
身体を動かすことの楽しさを
教えています。



外国語や異文化への
興味づけ

4

外国文化に親しむ

外国人講師によるフランス語の授業では、
新しい音やリズムを身体で感じることで、
楽しみながら自然に外国語や
異国の文化に慣れ親しんでいきます。



5

生活習慣の確立

異年齢との触れあい

子どもは、子どもの中で育ちあいます。
異年齢集団である縦割クラスは
最も自然な子ども社会といえます。
周囲の人との強い信頼関係は、
子どもたちの協調性、社会性を育みます。



幼稚園の一日



おはようございます!

登園
玄関前の大きなマリア様に手を合わせて祈り、園長先生と朝のあいさつを交わします。

モンテッソーリ活動
自分の教室で各自好きなお仕事を選んで取り組みます。

お弁当
クラスみんなでおいしいお弁当をいただきます。

**外遊び
クラス活動**
先生や友達と関わりながら、元気に外遊びやクラス活動します。

横割り活動
同学年で集まり、様々な活動に取り組みます。園庭でもたくさん遊びます。

帰りの会
聖歌を歌い、お祈りと共に幼稚園の一日が終わります。

**バイバイ
またあした!**

時間割

	月	火	水	木	金
9:00	登園				
10:30	自由選択活動(モンテッソーリ活動)				
11:00	体操(年少)	英語(年少)	英語(年少)	フランス語(年少)	フランス語(年少)
11:40	(外遊び)	帰りの会	(外遊び)	(外遊び)	(外遊び)
12:00	昼食		降園	昼食	
12:30	横割り活動(外遊び)			横割り活動(外遊び)	
13:00	体操(年中)	体操(年中)	体操(年中)	体操(年中)	フランス語(年中)
13:30	帰りの会			帰りの会	
14:00	降園			降園	

園内のご案内



教室
3・4・5歳の異年齢の子どもたちが楽しくすごします。



図書室
子どもたちの興味を引く本がたくさん。貸し出しも行います。



音楽室
たくさん楽器を使って、劇遊びや合奏をします。



ホール
雨天時に遊んだり、体操をしたり、みんなで集うホールです。



園舎

預かり保育

カリタス幼稚園では、仕事を持つ保護者への子育て支援を目的に、早朝・放課後の預かり保育を行っています。

※振替休日・長期休みにも行います。
※くわしくはホームページをご覧ください。

朝	7:30～ 9:00
月・火・木・金[1日保育]	14:00～17:00
水[午前保育]	11:45～17:00
延長	17:00～18:30



知的で、思いやりがあり、平和を愛する子どもを育てる

モンテッソーリ教育

montessori education

子どもは生まれながらにして、無限の可能性を秘めています。
この躍動するエネルギーを正しく援助し導くことにより、
その発達がより素晴らしいものになります。

モンテッソーリ教育とは？

イタリアが生んだ最初の女性医学博士で、精神科医であり優れた教育者であるマリア・モンテッソーリ(1870-1952)が提唱し実践した教育です。彼女は、適切な環境と援助が与えられるならば、子どもは自ら成長するものであることを発見し、世界の教育界に大きな影響を与えました。以来、世界各国に普及し、現在の教育界、心理学界、精神医学界においても卓越性が再確認されています。人格形成のいちばん大切な時期に自主性・協調性・社会性、創造性を育み、喜びに満ちた本来の子どもの姿の実現を目指していきます。

日常生活の練習

子どもたちの自立を支える基本となります。

自ら選んだ作業を自身で完成させることにより自立心を養い、困難を克服する喜び、集中力を身につけます。手を使い様々な経験をすることが、後の知的活動の基盤を作ります。

見てね!
これとこれを合わせて
お花をつくるよ。

大きさと形を
合わせよう。
これは、ここかな?

筆順、形に気をつけて
ひらがなの練習。
上手に書けるかな?

数



観察し判断する、
論理的思考を養います。

整数の量、数詞、数字の一致からスタートし、十進法の理解、四則計算の概念形成を行います。感覚教育で養った「対にする」「段階づけ」「分類」が数字によって量を表すことを知ります。物事を観察し、判断できるような論理的思考力を養います。

感覚

論理的な活動が
五感を洗練させていきます。

視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の5感覚を洗練させる活動です。「対にする」「段階づける」「分類する」の3つの操作により、それぞれの感覚をはっきり認識できるようになり、数学的頭脳の基盤にもなります。

言語

文字を楽しみながら
成長していきます。

2才半～6才の子どもたちは、言語に大変敏感な時期にあります。楽しんで文字を覚え、書き、読む力を身につけることによって自分で知識を深め、自己を高めていける子どもに成長します。他人を理解し自分を上手に主張できる円満な人格の育成に役立ちます。

文化

世界の文化を学び、
平和を愛する大人へ。

地理、歴史、生物、音楽、美術等、幼児の興味にそって提供し、命の大切さ、自分が生まれてきたことの意義を見出せるよう援助します。これらには平和を愛する大人へと成長できるようにとのねらいがあります。

年間行事



カリタス学園の紹介

～ともに歩む共同体～

カリタス学園は、分かち合いと交わりの場であり、その意味で、共同体、家族、ファミリーといえます。その教育は子どもたち、若者たちを中心とし、保護者、教職員、卒業生およびかかわり合うすべての人々が、よりよい教育を目指してともに歩み、協働します。



カリタス小学校 (男女共学)
Elementary School / Ecole primaire

小学校は、基礎学力を重視するとともに、「愛」の精神をもって人との信頼を育み、他者への思いやり、助け合う心を日々の活動・学習の中で養い、主体的に生きる力の育成をします。



カリタス女子中学高等学校
Junior & Senior High School / Ecole secondaire

中学高等学校では6年一貫教育を実施しています。6年間というゆとりある学校生活の中で、中学では基礎科目の定着を基本とし、高校では希望進路に応じたカリキュラムに取組みます。



カリタス宗教センター 野菊の家
Maison de Marguerite

カリタス学園の教職員、保護者、卒業生、子どもたちが祈り、対話し、助け合いのなかで、キリスト教の教えを学ぶ活動を行なっています。

■教職員

カリタス学園の教職員は、自分の仕事を、即ち預かっている子どもたちの成長を援助することを、神から委ねられた「ミッション」として受けています。従って、献身と熱意をもってその使命に取り組み、絶えず自己刷新を求め、互いの交わりと協働の精神を大切にします。

■後援会

後援会は、学園に在籍する子どもたちの保護者によって構成され、学園の教育環境の充実のため経済的援助をするとともに、学園と生徒の家庭との連帯協力や会員の親睦を図り、精力的に奉仕活動などを行っています。

■賛助会

賛助会は、卒業生の保護者を会員としたもので、高校の卒業生への記念品の寄贈、中学、高校そして小学校の課外活動に対する経済的援助を行っています。

■同窓会

同窓会は卒業生を構成員とした会であり、母校の教育活動や行事への協力、会員相互の親睦、会員間ならびに学園とのコミュニケーションを図るための会報を発行し、母校との絆を密に、さまざまな方法で学園を支えています。

カリタス学園の歩み

カナダ・モントリオールで愛の奉仕活動に生きた聖マルグリット・デュービル (1701～1771) の生き方がカリタス学園の精神になっています。



来日した3人のシスター



ケベック・カリタス修道女会本部



ケベック・カリタス修道女会本部聖堂(入口)にあるステンドグラス



カリタス修道女会 創立者
聖マルグリット・デュービル
(1701～1771)



ケベック・カリタス修道女会 創立者
メール マルセル・マレ
(1805～1871)

